専門研修プログラム名	多摩あおば病院精神科	専門研修プログラム
基幹施設名	医療法人社団新新会多摩あおば病院	
プログラム統括責任者	木村一優	

専門研修プログラムの概要	多摩あおば病院は都内でも有数の高病床回転率を誇り、多彩な患者層への精神科医療を提供しており、指定医症例は数か月で揃います。短期間で、精神科医療のスタンダードを身に着けることが出来ます。また、司法精神医学、物質依存、児童青年精神医学、認知症、精神病理学、精神分析を専門とする医師らで構成されており、専門性の高い研修を行うことも出来ます。臨床研究についての教育を行い、国際学会での発表も経験できます。連携施設として埼玉県立精神医療センター、国立精神・神経医療研究センター、弘前大学神経精神科、病院 東京警察病院　東京大学医学部付属病院精神科、東京都立松沢病院、東京警察病院、目白メンタルクリニック、与野中央病院があります。	
専門研修はどのようにおこなわれるのか	埼玉県立精神医療センターコースと弘前大学コースがある。埼玉県立精神医療センターコースは、1年目は、多摩あおば病院でスタンダードな精神科治療が行えるようにします。2年目、もしくは3年目は、埼玉県立精神医療センターで、学びます。埼玉県立精神医療センターに行っていない2年目もしくは3年目で、NCNPにおいて医療観察法病棟における医療、認知行動療法、画像診断について学びます。弘前大学コースは、2年間弘前大学神経精神科で、スタンダードな精神科医療に加えて、専門性の高い領域について学び、1年間は多摩あおば病院で急性期治療をはじめ地域精神科医療を学びます。	
専攻医の到達目標	修得すべき知識・技能・態度など	専攻医は、基本的な医学知識や技能を身に着けるだけでなく、医学・医療の進歩に遅れるずに、常に研磨自己学習をすることが求められます。
	各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得	専攻医は、カンファレスで症例報告をし、文献的考察を加えて、学会で発表していくようにします。
	学問的姿勢	専攻医は、リサーチマインドを持ち、医学・医療の進歩に遅れることなく、常に研磨自己学習をすることが求められます。
	医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性	日本精神神経学会等に参加し医療安全、感染管理、医療倫理、医師として身に着けるべき態度などについて履修し、コアコンピテンシーを高める機会を設ける。他職種との共同作業を通して医療を提供すること、他科との連携、そして患者さんとのシェアード・ディシジョンメイキングなど、倫理性、社会性を学びます。
施設群による研修プログラムと地域医療についての考え方	年次毎の研修計画	NCNPコースは、1年目は、多摩あおば病院、2年目以降、3カ月間NCNPにおいて学び、それ以外は多摩あおば病院で学びます。弘前大学コースは、2年間弘前大学神経精神科で学び、1年間は多摩あおば病院で学びます。
	研修施設群と研修プログラム	埼玉県立精神医療センター　国立精神・神経医療研究センター病院 弘前大学神経精神科 都立松沢病院 東京警察病院　東京大学医学部付属病院精神科 目白メンタルクリニック 与野中央病院

	地域医療について	地域精神科医療の拠点を志しています。
専門研修の評価	3か月ごとに、カリキュラムに基づいたプログラムの進行状況を専攻医と指導医が確認し、その後の研修方法を定め、研修プログラム管理委員会に提出します。研修目標の達成度を、当該研修施設の指導責任者と専攻医がそれぞれ6か月ごとに評価し、フィードバックします。その際の専攻医の研修実績および評価には研修記録簿／システムを用います。	
修了判定	プログラム管理委員会で行います。	
専門研修管理委員会	専門研修プログラム管理委員会の業務	専攻医がスムーズに研修が行えるようにする。
	専攻医の就業環境	基幹施設ではその就業規則に基づき勤務時間あるいは休日、有給休暇などを与えます。慶弔休暇、産前産後休業、介護休業、育児休業など就業規則に規定されたものについては請求に応じて付与できます。それぞれの連携施設においては各施設が独自に定めた就業規程に則って勤務します。
	専門研修プログラムの改善	研修施設群内における基幹病院の統括責任者と連携施設の指導責任者による委員会にて定期的にプログラム内容について討議し、継続的な改良を実施し、次年度プログラムへの反映を行います。
	専攻医の採用と修了	採用試験を行います。達成目標の到達を確認して終了します。
	研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件	専門医制度に則ります。
	研修に対するサイトビジット（訪問調査）	必要に応じます。
専門研修指導医 最大で10名までにしてください。主な情報として医師名、所属、役職を記述してください。	木村一優（多摩あおば病院 副院長）中島直（多摩あおば病院 院長） 黒木規臣（埼玉県立精神医療センター 副院長）鬼頭伸輔（国立精神神経医療研究センター病院 診療部長）中村和彦（弘前大学神経精神科 教授）三角純子（都立松沢病院 医長）古川俊一（東京警察病院 医長）榊原英輔（東京大学医学部付属病院精神科 講師）須田賢太（目白メンタルクリニック 院長）関場秀高（与野中央病院 院長）	
Subspecialty領域との連続性	司法精神医学、物質依存、児童青年精神医学、認知症、精神分析を学ぶことができます。	